

森林再生×障がいのある方への仕事創出プロジェクト

株式会社プロロジス 社員ボランティアの皆様

【パートナー団体:NPO 法人 森のライフスタイル研究所 他】

■活動の目的:

物流不動産の所有・運営・開発のリーディング・グローバル企業であるプロロジスは、事業活動を展開する地域社会への貢献を目的とした森林ボランティア活動を行いました。目的を達成するために、以下の2点を意識して活動しました。①「伐って、使って、植えて、育てる」という森林資源の循環利用を促進すると同時に、従業員の環境意識を高めること。②障がい者支援施設を利用する方々への職務開発。植樹した苗木を薪材に育て、将来的には薪割り作業を利用者の仕事としていただくこと。

■活動を始めたきっかけ(活動開始 2024 年 5 月):

プロロジスでは、物流不動産開発と事業活動が環境に与える影響を深く理解しています。これまで、環境認証取得基準に沿った施設開発・運営に積極的に取り組み、開発地周辺の生物の分布調査を行うなどのボランティアを行ってきました。この度は、物流施設を開発する地域貢献活動に取り組んできた当社の従業員たちが自主的に調査をし、「持続可能な社会の実現に向けて、地域の森林再生をしたい」と考えたことが活動のきっかけです。

■活動内容(ボランティア実数 124 名):

森は地域や社会を潤す貴重な資源であり、私たちの生活に欠かせない存在です。CSR 活動を通して持続可能な社会の実現に貢献してきたプロロジスでは、かねてより開発した物流施設付近の環境保全活動に力を入れてきました。そのため、社内には環境保全活動に関心がある従業員が多く在籍しています。この度の森林ボランティア活動は、当社が開発する施設近くでお手伝いできる場所を探していたところ、千葉県八街市の障がい者支援施設が所有する里山が見つかったことがきっかけです。



施設は、社会福祉法人光明会が運営。里山は、森林が高齢化し、病害虫に悩まされ、また、相次いで起こる台風の被害を受けており、早急な森の作り直しを必要としていました。また、施設の畑でのサツマイモや落花生の苗植え作業は、作業面積が広大であり、人手が不足していることが分かりました。そこで、人手不足問題の早期解決に向けて、当社の従業員たちがボランティアとして施設をお手伝いさせていただくこととなりました。

作業は、NPO 法人 森のライフスタイル研究所の協力のもと実施。同研究所は「森林への無関心をなくす」という目標を掲げて活動しており、これまでも多くの企業と合同で森林のボラ

ンティア活動を実施するなどの実績があります。当社とも定期的にボランティア活動の相談に応じていただくなど、約 10 年のお付き合いがあります。

活動当日は晴天に恵まれました。東京駅からバス 3 台をチャーターして、従業員たちが2時間かけて一緒に千葉に向かいました。それぞれのバスには有志で募った実行委員会メンバーが数人乗り、当ボランティアの企画や意図を従業員たちに改めて説明しました。従業員たちは皆、同じ T シャツを着て団結力を高めました。

現場の里山は病気や台風により荒廃していました。従業員は2人1組になり、手袋をはめ、枯れ果てた地を伐り、サクラやクヌギ、スギ、ケヤキの苗木を約1000本植えました。その後、サツマイモや落花生の苗の植え付けを行い、そら豆の収穫を行いました。

活動終了後は畑で収穫したそら豆や、障がい者支援施設のお菓子を食べながら打ち上げ。従業員からは「森林に関心を持つきっかけになった」「また来年もボランティア活動を行いたい」との声があがりました。社会福祉法人光明会からも「助かりました。これからも良い関係を築いていければ嬉しい」との言葉をかけていただいています。



■活動の成果:

植樹した苗木は約 15 年後に大木へと成長し、環境保全上の多くのメリットをもたらします。この木々は薪材にもなり、障がい者支援施設の利用者の方々に「薪割り作業」という仕事を作ることが出来ます。苗を植え付けたサツマイモや落花生も将来的に利用者によって収穫されます。また、地域の幼稚園児たちの「お芋掘り体験」の場としても使われるようです。

第 10 回企業ボランティアアワード『大賞』